

# I はじめに

令和4年第1回伊達市議会定例会の開会にあたり、市政執行に臨む私の所信の一端を申し上げます。

私は、市長就任から本年で24年目を迎え、市長6期目の任期も残すところあと1年となりました。

この間、我が国において、地方都市の人口減少や少子高齢化は全く歯止めがかからず、労働力不足や地域経済の縮小、地域コミュニティの担い手不足など地方の自治体にとって大変厳しい時代となりましたが、市政執行にあたっては「伊達市総合計画の着実な展開」、「未来を担う人材の育成・確保」及び「経営的な視点に立った行政改革の推進」を大きな柱として掲げ、また、「将来にわたって持続可能なまちづくり」を念頭におきながら、市民の皆さまがこのまちで暮らしてよかったと心から思えるまちづくりに全力で取り組んでまいりました。

しかしながら、この厳しい時代に追い打ちをかけるかのように新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、我が国の経済や国民の生活環境に大きな影響を及ぼしております。

未だ終息の見通しも立たない中、本市においても外出機会の減少、消費・経済規模の縮小及び税収等の減少が続くことになれば、まちの活力の低下につながりかねない問題であることから、激動する社会情勢を見据え柔軟に対応を進めているところであります。

一方、新型コロナウイルス感染症による危機を契機として、人口密度が低く感染リスクの少ない地方移住への関心や、様々な働き方を可能にするデジタル化に対する需要が高まりを見せており、特にデジタル化については、まち全体として速やかに対応できるか否か

が本市の将来を左右する大きな分岐点になると思われまます。

このような変化を関係人口の増加に向けての大きなチャンスとしてとらえ、ウィズコロナ、ポストコロナ時代にいち早く対応するための道を模索しているところであります。

こうした厳しい時代にあっても、活力を失わずに希望がもてるまちづくりを進めていくためには、「まちづくりの自分ごと化」の意識を醸成し、定着させ、一人ひとりが自らできることに取り組むことが重要と考えております。

「第7次伊達市総合計画」の策定をきっかけとして様々な分野でワークショップを開催するとともに、令和2年度からは、本市の未来を担うリーダー「伊達人（だてびと）」を育成するため「みらい塾」を開催してまいりましたが、あらゆる年代・立場の方々が想像以上に数多く参加してくださいました。

そうした場での熱意あふれる議論や熱心に学ぶ姿勢に、本市のポテンシャルの高さを改めて確認できただけでなく、市民の皆さまと行政が一丸となって協力し合うことで時代の潮流を踏まえた施策を展開し、地域が復活・再生できるようまちづくりに取り組むことの重要性を再認識したところであります。

これからも人材を発掘し育てる取組を継続し、市民力が発揮される環境づくりに努め、今以上に豊かなまちを創りあげてまいります。

今後の経済や社会動向の変化を予測することは非常に困難ではありますが、市民生活に最も身近な基礎自治体としての役割を果たし、すべての人が幸せに暮らすことができる『みんなが豊かさを感じられる市民幸福度最高のまち』の実現に向けて、新年度の市政の舵取りをしてまいりますので、市議会議員及び市民の皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。